



都市基盤工学コース，建築環境デザインコースの学生らが 有明海沿岸道路 橋梁・地盤改良技術の現場研修に参加

【概要】

10 月 20 日，国土交通省九州地方整備局有明海沿岸道路工事事務所の主催による有明海沿岸道路 諸富 IC—大野島 IC の開通前の現場研修に，本学部都市基盤工学コース，建築環境デザインコースの教員・学生ら 58 名が参加しました。学生らは，現場見学を通して，佐賀低平地ならではの土木工学技術の他，周辺景観への配慮などを広く学べる貴重な機会となりました。

【本文】

佐賀，福岡の両県では，有明海沿岸道路の建設が進められ，福岡県側では，平成 20 年の部分開通を始めとして，佐賀県へ向けて順次延伸されています。令和 3 年 3 月には筑後川の渡河を含む大野島 IC までが開通し，そして早津江川の渡河を含む諸富 IC までの区間が本年 11 月 12 日に開通する予定です。今回，その開通に先立ち，事業者である国土交通省九州地方整備局 有明海沿岸道路工事事務所主催によって現場見学会が開催されました。見学会には本学部都市基盤工学コース・建築環境デザインコースの学生と都市工学部門教員の計 58 名が参加し，事業概要，有明早津江大橋渡河部，地盤改良工，橋梁下部工を学びました。

有明海湾奥部沿岸の低平地には，有明粘土で構成される軟弱地盤層が存在します。極めて変形しやすい特徴があり，その地上部で橋梁や盛土といった重量のある土木構造物が建設される際には，試験施工などを経て，十分に配慮を重ねた上で施工される地盤改良工が必須です。また，橋梁の設計選定においては，経済性だけでなく地盤の特徴などを考慮した構造的，施工中の影響，周囲の景観との調和なども総合的に評価されるので，様々な橋梁を見学することは重要な事例研究となります。そのため詳細な解説とともに普段は接することの出来ない工事現場を間近で見られることは，たいへん貴重な機会です。

都市工学分野の両コースでは，3 年次の学生を対象として地盤工学，水環境工学，構造工学，都市計画，建築環境デザインの 5 分野に分かれた「都市基盤工学ユニット演習」と「建築環境デザインユニット演習」という科目を後学期に開講しています。座学の総括という目的を持つ科目となり，4 年次の卒業研究着手を目前に控え，重要な必修科目となっています。今回の現場見学には地盤工学と構造工学分野のユニット演習を履修した学生と，両分野に関係する研究室の学生が参加しました。本研修によって今後の卒業研究への弾みや建設分野への就職と活躍の一助になれば幸いです。

最後に，本見学会開催に当たり国土交通省九州地方整備局 有明海沿岸道路工事事務所の皆様には多くのご支援賜りました。ここにお礼申し上げます。



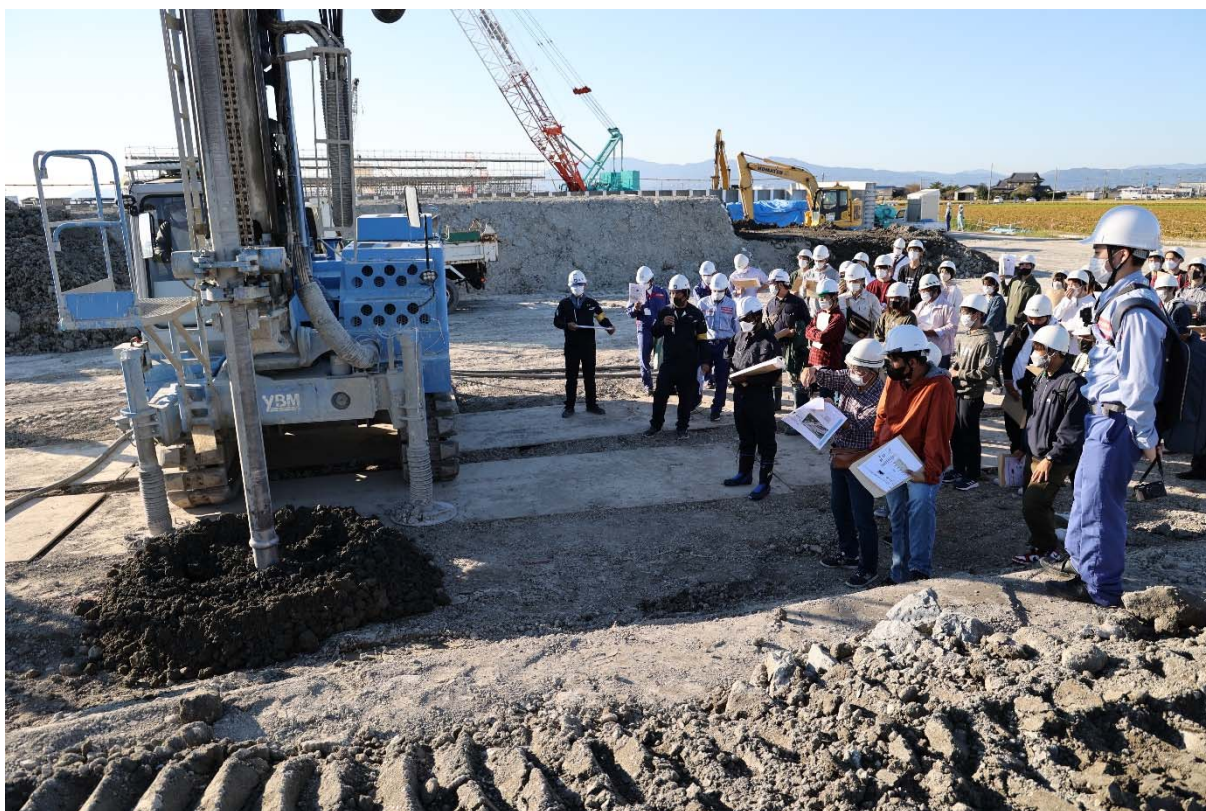
事業概要の説明



有明早津江大橋での記念写真



有明早津江大橋から望む昇開橋



地盤改良工の見学

橋梁技術や軟弱地盤対策学ぶ 有明海沿岸国道事務所 佐賀大生招き現場見学会



九州地方整備局有明海沿岸国道事務所は20日、佐賀大学の学生約60人を招き、有明海沿岸道路諸富ICなどの現場見学会「写真」を実施した。建築系、土木系の3年生を

中心に、4年生、修士・博士課程の学生が参加し、完成した有明早津江川大橋や施工の進む諸富IC、川副IC間の現場などを見学した。冒頭、有明海沿岸国

道事務所の新保二郎所長は、諸富ICの道路上に集合した学生を前に、「大野島IC、諸富IC間は、あとは通信機器や標識などの整備を残すのみとなっております、今回は開通直前のほぼ仕上がった状態を見てもらうことになる。開通後は歩けなくなる場所なので、良い思い出にしてもえれば」とあいさつした。

有明海沿岸道路の事業概要説明では、有明海地域の軟弱地盤対策に設計段階から取り組んだことや、ICT施工を導入して整備を進めたこと、周囲の景観等に配慮して有

明早津江川大橋を設計・施工したことなどを説明。実際の橋の見学では、参加者は橋の象徴ともいえる大きな単弦アーチを下から見上げるなど、その景観を楽しんだようだった。

その後は整備が進められている諸富IC、川副IC側へ移動。(株)大同工務店が施工する「佐賀208号諸富地区改良(その1)」の現場では、地盤改良機が地面を掘削し、混合・攪拌を行う様子を見学。唐津土建工業(株)が施工する「佐賀208号川副1号橋下部工(A1)」の現場では、施工フロアに

ついて説明を受けたほか、実際に現場で進められている働き方改革の取り組みや、BIM/CIMの活用についても学んだ。

見学を終えて、同行していた佐賀大学理工学部理工学科都市工学部門の講師を務める三島悠一郎工学博士は、「課題解決型授業を進める上で、工事の流れや、こういった技術があるのかということとを、現場を見て知ってもらうことを主な目的としている。今回は橋梁技術や、佐賀の特徴である軟弱地盤について学べたのが大きなメリットだった」と語った。

54人が参加 佐賀大学生らが現場見学

有明海沿岸国道事務所



早津江大橋を見学

九州地方整備局有明海沿岸国道事務所は20日、有明海沿岸道路の早津江川大橋―諸島IC間で、佐賀大学生54人を対象とする現場見学会を開催した。当日は佐賀大学生ら54人が参加、事業概要や施工現場の見学を行った。

有明海沿岸道路は11月12日に大野島IC―諸島IC間(延長1.7キロ)が開通予定、今回の見学現場もこの区間に含まれている。

見学会は卒業研究を受けた学生の課題解決能力を養うユニット演習の一環で、開通前の現場を見学出来る貴重な機会ということで大々側から申し込みがあった。参加した学生は地盤関係と構造関係を学ぶ3年生が中心。

学生らは、事務所職員から事業の概要や施工内容に関する説明を受けた後、諸島ICから早津江川大橋までを徒歩で移動し、記念撮影を行った。

また地盤改良と橋梁下部工を行っている現場の見学も実施。現場担当者から施工方法や使用する機械の紹介などを受けた。熱心な質問を傾けていた。

引率してきた同大学理工学部理工学科の三島悠一郎講師は、学生の現場見学に関して「課題解決型授業に力を入れているが、現場を知らない場合は、課題を追究することができない。講義で習っただけでなく、自分の目で現場を知ってもらうのが大きな目的」と話した。



▲施工者の説明を聞く学生ら